令和４年度

全国学力・学習状況調査結果の結果について

学校には、新学習指導要領に基づく「社会に開かれた教育課程」のもと「個別最適な学び」や「協働的な学び」を通して児童生徒の資質や能力を育成することが求められています。

今年の４月に行われた全国学力学習状況調査は学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。今年度の調査結果の概要をお知らせします。

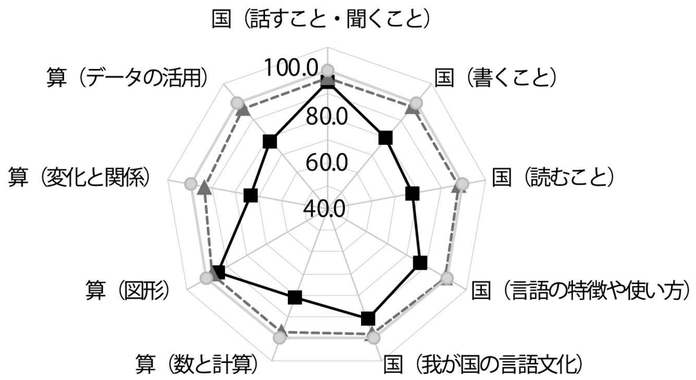
町では本調査結果を活用し、児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けられるよう、今後も取り組みを進めていきます。

小学校

【国語】
「話すこと・聞くこと」は全国・全道に近づいていますが、「読むこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方」に関する事項に課題が見られました。必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題では、全国・全道を上回りました。

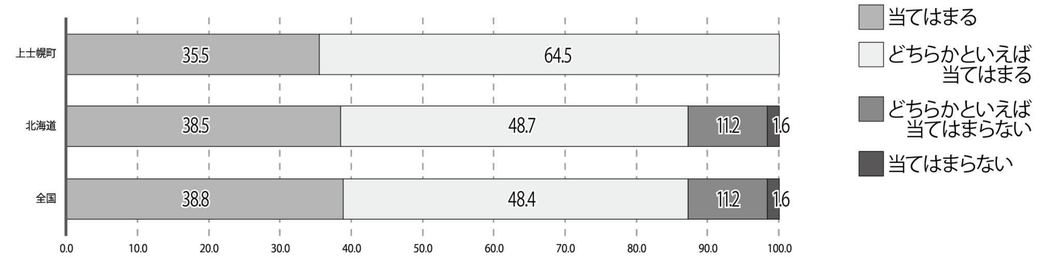
【算数】
「図形」は全国・全道に近づいていますが、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」に課題が見られました。ひし形や平行四辺形等の図形の性質や構成についての問題では、全国・全道と同程度でした。

■小学校の正答率の比較（全国を100として）

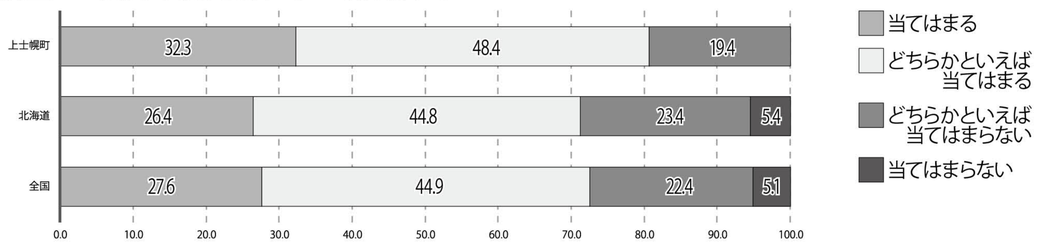


児童への質問では、「自分でやると決めたことは、やり遂げる」は全道・全国を大きく上回りました。また、「失敗を恐れないで挑戦する」も８割以上が当てはまると回答をしました。児童の関心・意欲を高める授業が日常行われていると考えます。またＩＣＴを使った授業も活用頻度が高かったです。

■児童への質問：自分でやると決めたことは、やり遂げる



■児童への質問：失敗を恐れないで挑戦する

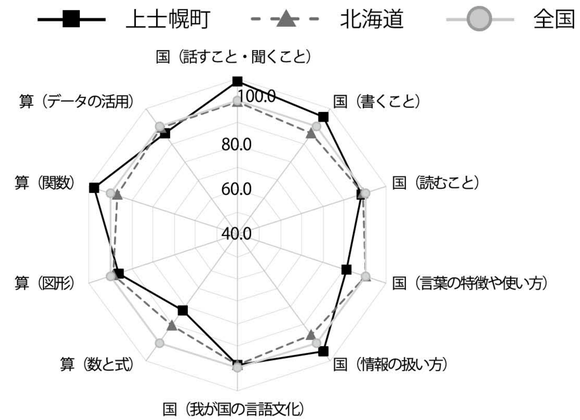


中学校

【国語】
「話すこと・聞くこと」「書くこと」「情報の扱い方」に関する事項は全道・全国平均を上回り、「読むこと」「言葉の特徴や使い方」に関する事項に課題が見られました。聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する問題では、全道・全国を上回りました

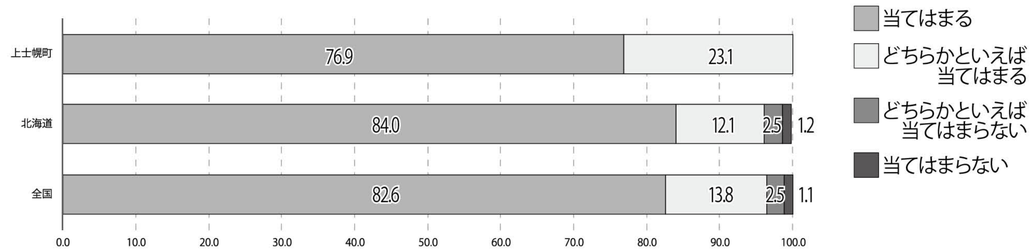
【数学】
「関数」が全道・全国を上回りましたが、「数と式」「図形」「データの活用」に課題が見られました。一次関数では全道・全国を上回りましたが、自然数を素数の積で表すことができる問題では、課題が見られました。

■中学校の正答率の比較（全国を100として）

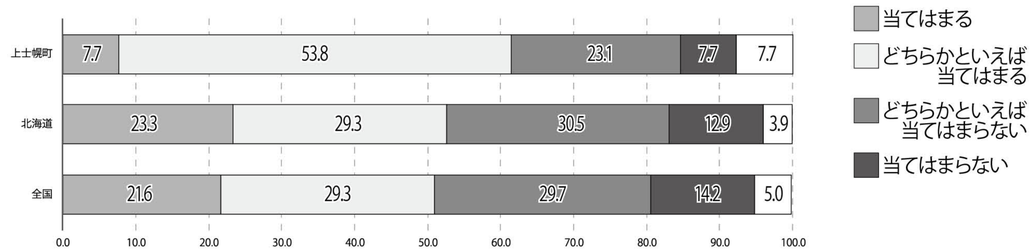


生徒への質問では、すべての生徒が、「いじめは、どんな理由があってもいけない」と答えました。また、パソコンやタブレットなどについて全国・全道より授業での活用頻度が高かったです。その他、「国語や数学の授業が好き」でも全国・全道を上回りました。ＩＣＴ活用の工夫された授業が展開されていると思います。

■生徒への質問：いじめは、どんな理由があってもいけない



■生徒への質問：授業で、タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか



【上士幌町の学力向上策について】
- 町学力向上推進会議で、共通の視点に立った一貫した学力向上策を進めます。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組み、質の高い授業づくりをします。
- ＩＣＴ推進担当教諭を中心に、ＩＣＴ機器の活用等の学習活動を取り入れた個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図ります。
- 一人ひとりの学習状況に応じるため、町専科教員・教育支援員の活用を推進します。
- 家庭で一貫した学習規律の徹底や規律正しい生活リズムを整えるとともに、家庭学習の充実を図ります。

【家庭で取り組んでほしいこと】
- テレビやスマートフォン、ゲーム機等の時間を決めるなど計画性をもたせることが必要です。
- 学年に応じた毎日の家庭学習の習慣化を図ることが大切です。

今後とも、学校、家庭、地域が連携して一体となった本町教育のさらなる充実に努めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

※お問い合わせは、教育委員会教育推進課（☎2-3014）まで